

# 学校だより

# 翔 空

No. 37 平成24年 1月24日 (火)  
郡山市立喜久田中学校長 大堀 昌弘

「翔空」の由来 〈校舎のシンボル〉

壁画「空へ」を受け、風光明媚なこの学舎から、希望に燃え限りない空へ、力強く翔んでほしいという願いを込めて、翔空の碑ができた。

## 【節分の儀とは？】

まだまだこういう話は早いとは思いますが、節分の儀についてお話をします。

節分の日、豆まきをして「鬼(邪気)」を払います。豆まきには悪魔のような鬼の目「魔目〔まめ〕」にめがけて豆を投げれば「魔滅〔まめ〕」すなわち魔が滅するという意味があると考えられています。これらの意味から、豆は鬼を払う道具でありながら、鬼そのものごととらえられているのです。そのため、節分の豆まきの際は鬼である豆の外に投げながら「鬼は外」と唱えます。豆まきの他、鬼を払うため鬼が嫌う「糶〔いわし〕」の頭を刺したものを戸口に立てておいたり、炒った大豆を年の数だけ食べるなどの習慣が今も続いている地域があります。節分の鬼は「毛むくじゃらのたけが高く、赤や青色の皮膚をしており、筋肉質で丑寅〔うしとら〕の方角から来る」などと言われています。

ちなみに、英語では豆まきの際に、何と叫ぶかと言えば、

**In with good luck, out with bad luck! Happiness in, demons out!** などが考えられます。



## 「いかに動機付けをするか」

～誰でもがヒーローになれる！～

以前買って読んだ本の中に、「ベストを引き出す(原典: Bringing out the best in people)」(アラン・マクギニス著)という本があります。この本は、私にとっては、指導者(特に教育者)に対して宝石のような事例や言葉をたくさん含んでいて、何度でも読みたいくなる本の一つです。ちなみに、今、原本を借り寄せて数回の読破を目指しています。

その本の第6章「サクセス・ストーリーの持つ力」には、次のような事例が載っています。

「指導者が成功した人々の話を積極的にするのは、ある価値を我々に植え付けるだけでなく、我々を、彼らにできるなら自分にもできるという気持ちにさせるためである。・・(途中省略)・・1マイル競争の記録は、4分59秒のところで9年間も止まっていた。1945年へイグという選手が4分1秒4と4分1秒の壁に迫っていた。ところが、人間の肉体能力はこれに限界でもう4分の壁を破るのは不可能という人が多かった。しかし、9年後にあたる1954年バニスターという選手が3分59秒4でテープを切ると、その後、次々と記録を突破し、なんと26人の選手によって66回も記録が塗り替えられたのである。つまり、選手たちは、自分たちにもできるということに道が開けられたのである。不可能だと思われていたことに道が開け、成功に手が届くという具体的な証拠を目のあたりにして、選手たちはますます記録を破ろうと意欲を燃やしていったのである。」

ヒーローとは、並外れた振る舞いをする象徴的な人物のことですが、だからといって手の届かない存在ではありません。彼らは、往々にして劇的に、**成功の夢は普通の人間にも可能である**ことを私たちに教えているのです。

思い起こせば、昔の先生方は、ゆったりとした授業の流れの中で、たまに立ち止まって、有名な偉人のサクセス・ストーリーを読んで聞かせました。たまには、教科書を進めるのをやめて、子どもたちの心の中に、「自分にもできる！(You can do it!)」という炎を燃やしていたのです。ここ福島県で言えば、野口英世や朝永振一郎、さらには最近では、あのはやぶさに貢献した会津大学等々身近なところにもたくさん見習うべき人がいます。ご家庭でもぜひそんなお話をしてやってください。

ところで、インフルエンザが小学校を中心に流行っています。受験生の親御さんは本当に心配ですね。まずは、健康が第一です。お体をお大切に。

